

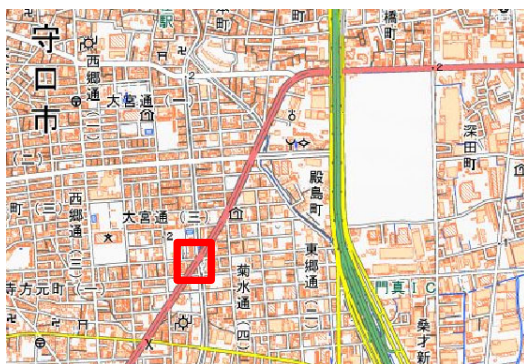
活用事例

- 橋長：18.6m、幅員：25.7m
 - 橋梁形式：単純鋼合成鈹桁橋
 - 対象部位・部材：主桁、横桁、対傾構
 - 性能カタログ(又はNETIS)番号
:BR020002-V0525
- ☆[性能カタログへのリンク](#)

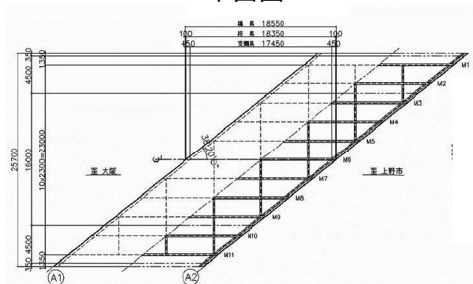
橋梁・支援技術



位置図及び側面図



平面図



○点検支援技術の効果

- ・鋼部材の塗膜を剥がすことなく塗膜下の亀裂の有無を判断できる渦電流による探傷技術。
- ・従来技術(磁粉探傷試験)と比べて塗膜除去、タッチアップに要する時間を省くことができる。また、探傷器本体、制御用PCはコンパクトで操作性が良く、作業時間の短縮が可能になる。

○使用時の留意事項

- ・塗膜が極端に厚い場合は使用できない。
- ・溶接部に凹凸があり形状が乱れている場合は、その段差に反応するため亀裂との区別ができない。



写真-1 調査状況



写真-2 調査状況



写真-3 プローブ(探傷装置)

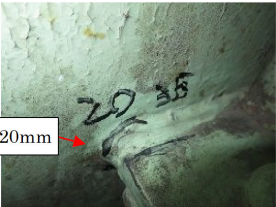
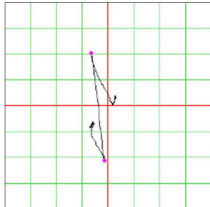
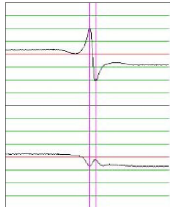
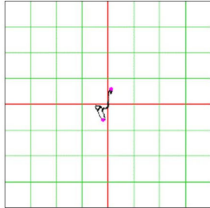
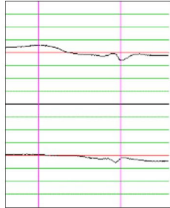
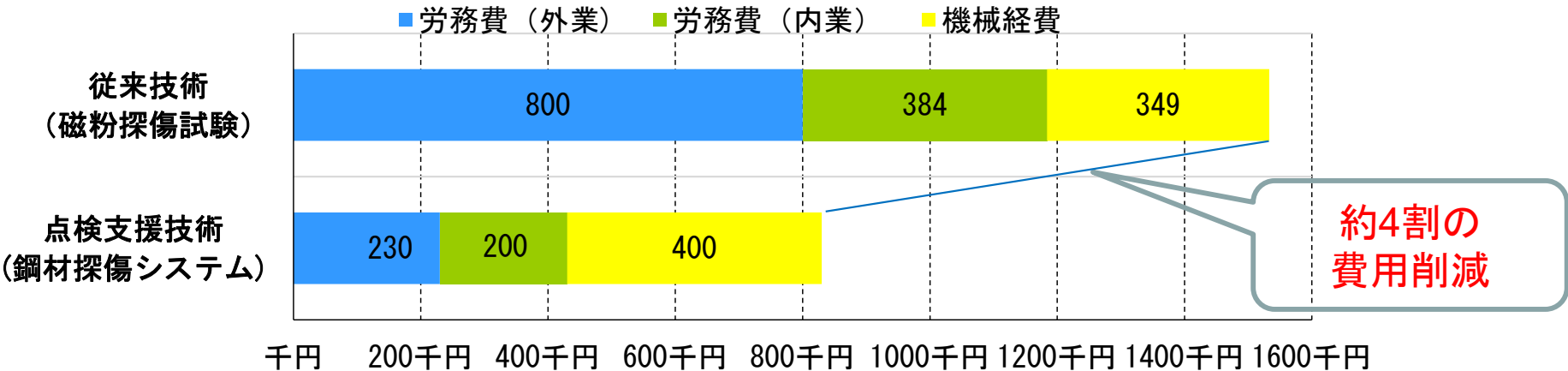
No.	部材 - 要素 - パターン	長さ[mm]	一次判定	最終判定	備考
5	8	Cf-0302-C111	20	○	亀裂あり
  					
No.	部材 - 要素 - パターン	長さ[mm]	一次判定	最終判定	備考
5	8	Cf-0302-C111	35	×	亀裂なし
  					

写真-4 調査結果

コスト比較

比較条件：塗膜割れ亀裂調査のコスト比較。
評価：従来技術(磁粉探傷技術)と比べ、コストダウンに寄与。



項目	従来技術	点検支援技術
外業	磁粉模様による探傷試験	渦電流による探傷試験
内業	調書作成	調書作成
比較対象	磁粉探傷試験	渦電流探傷試験
合計金額	1533千円	830千円
工程	5日	1日

○諸条件
点検面積:476.7m2
橋台高:0.6m(GL～桁下)
天 候:晴れ
対象部位・部材：主桁、横桁、対傾構
塗膜厚:343μm
点検時間:9:00～17:00
積 算:業者見積もり
前回の健全度：Ⅱ判定
作業体制:1パーティで調査を実施(地上)